

平成22年度 運営評価委員会 運営評価結果

評価基準

- ◎付加価値がついたもの、
特段の業績として認められるもの
- 実施・完了したもの、完了見込みのもの
- ×未実施のもの、実施したが不十分なもの

1. 重点対応事項

(1) 総来館者数

業務計画		評価	評価理由及び改善案
A-1	総来館者数	◎	常設展、企画展、交流施設を含めた総来館者数が、開館以来はじめて年間100万人を達成した。来年度以降は、館のキャパシティを超えるような来場者があった場合の混雑対応を検討すると同時に、量から質への転換を図る。

(2) 来館者満足度評価

業務計画		評価	
A-2	来館者満足度評価	○	

(3) 館外事業参加者数

業務計画		評価	
A-3	館外事業参加者数	○	

(4) 未来館事業収入

業務計画		評価	
A-4	未来館事業収入	○	

(5) CO2削減

業務計画		評価	評価理由及び改善案
A-5	CO2削減	◎	目標削減率8.5%削減(平成19年度比)に対し、1月末時点で既に11.2%の削減を達成済。

(6) 未来館10周年事業

業務計画		評価	
A-6	未来館10周年事業	○	

2. 施設運営業務

(1) 施設活用

- ①交流施設の稼働率
- ②展示ゾーン及び交流施設の主な改修・開催イベント
- ③展示稼働率の推移

業務計画		評価	評価理由及び改善案
B-1	利用施設の管理	○	
B-2	施設利用者への対応(利用施設の管理、受付・案内及び利用の促進)	×	施設稼働率は高く、施設利用者への対応は問題なかったが、館内改修工事により、貸出不可能な施設があったため、前年比では減収になった。来年度以降は、計画的に外部機関等と連携した新規利用者の誘致強化等を行い、稼働率の向上とリピーターの拡充を目指す。
F-11	企画展示ゾーン等の活用	○	
B-3	展示物及び展示装置の運用	○	

(2) ボランティア

① ボランティア活動時間と登録者数

② ボランティア活動実績

業務計画		評価	
B-4	ボランティアの活用	○	

3. 科学コミュニケーション推進業務

① 時宜をとらえた科学コミュニケーション活動

② 国際的な科学コミュニケーターの活動

③ 外部発表(学会発表・館外講演・講演等、記事執筆・取材対応)

④ 研究者との対話機会

⑤ 研究機関・学会との連携(外部協力・共同研究・科学監修)

⑥ 大学、その他との連携

⑦ 科学コミュニケーション活動基本方針

業務計画		評価	
B-5	科学技術に関する解説・実演・実験教室等の運営	○	
C-1	学会発表・成果普及	○	
D-12	大学・研究機関等との連携	○	
C-2	質の高い科学コミュニケーションへの取り組み	○	

4. 普及展開、人材養成業務

(1) 科学コミュニケーター養成

① 日本科学未来館科学コミュニケーター養成計画

② 科学コミュニケーターその後の活動の場

③ 科学コミュニケーターの属性

④ 科学コミュニケーター内部研修実績

業務計画		評価	
D-1	科学コミュニケーター活動統括	○	
D-2	科学コミュニケーター採用・研修	○	

⑤ 科学コミュニケーター外部(短期・長期)研修実績

業務計画		評価	
D-3	外部向け科学コミュニケーター研修	○	

(2) 学校連携

業務計画		評価	
D-4	学校連携	○	

(3) 科学館連携

① 科学館連携活動実績

業務計画		評価	
D-5	科学館連携	○	

② 全国科学館連携協議会

業務計画		評価	
D-6	全国科学館連携協議会事務局	○	

(4) 成果普及

① 先進的科学館連携事業

業務計画		評価	
D-7	先進的科学館連携推進事業	○	

② 巡回展・展示貸出・映像配給状況

業務計画		評価	
D-10	成果普及	○	
D-9	環境関連展示物巡回事業	○	
D-8	先駆的展示手法開発統括	○	
B-8	普及展開	○	

(5) 国際(海外機関との連携、国際総合監修委員会(IAB))

業務計画		評価	評価理由及び改善案
D-11	海外機関との連携	◎	国際総合監修委員会及びMiraikanフォーラム2010を開催した(平成22年10月2日)。世界の科学技術・科学館分野の第一人者を委員として迎え、未来館の総合的な評価及び今後の活動の方向性について、国際的視野から審議した。本委員会でもまとめた「Miraikanメッセージ2010」は、地球規模課題解決のために科学館が果たす役割についての提案であり、未来館の次の10年間の活動の理念となるものである。 来年度以降も、国際的な科学館組織(ASPAC等)に対する未来館のより積極的な参画のあり方やビジョンを打ち出し、戦略的展開と体制整備を検討する。

5. 展示開発業務

業務計画		評価	評価理由及び改善案
E-1	先端科学技術に関する新規展示の企画提案及び製作等の支援	○	
E-2	展示開発における企画、設計	○	
E-3	常設展の企画提案、設計、制作、実施、管理	○	
E-4	企画展の企画提案、設計、製作、実施、管理	◎	様々な切り口の企画展を多数開催することで、多くの来館者が先端科学技術に触れる機会を作った。中でも、「ドラえもん科学未来展」(平成22年6月12日～9月27日)については、外部事業者やメディア等との共同事業により、企画制作、広報・集客、巡回営業、運営など外部のリソースを活用することで、来場者数、広告換算費とも過去最高の実績を達成した。
E-5	大型映像および映像コンテンツの企画提案、設計、製作、実施、管理	○	
E-6	先駆的展示開発のための、技術的な実験、試作の制作、実施	○	
E-7	イベント(トーク、ミニ企画展、ライブ等)開催、支援	○	
E-8	巡回、アウトリーチ、新規開発実演等における、設計、技術開発支援	○	
E-9	映像展示機器の有効活用等	○	
E-11	パブリケーション	○	

6. 事業推進業務

(1) 広報

① 広報実績(メディア対応件数推移、広告換算費推移、ホームページアクセス数推移)

② 海外広報実績

業務計画		評価	
F-1	未来館活動の広報	○	
F-2	未来館ホームページの運営	○	
F-3	広報ツール作成	○	
F-8	来館促進ツールの企画・制作	○	

(2) 友の会

① 友の会会員数推移表(継続率、新規・更新・退会)

② 友の会「第3期プラス会員」の満足度調査結果

③ 友の会活動実績

業務計画		評価	
F-4	「友の会」の運営	○	

(3) パートナースhip(パートナー企業契約一覧、活動状況)

業務計画		評価	
F-5	企業との連携推進におけるパートナーシップの運用	○	

(4) 利用促進・マーケティング

① 団体誘致活動

業務計画		評価	
F-6	団体利用者誘致のための営業活動	○	
F-7	地域の行政機関、まちづくり協議会等との連携	○	

② マーケティング調査(来館者アンケート調査結果等)

業務計画		評価	
F-9	マーケティング	○	

7. 総合管理業務(企画調整、総務・経理、秘書)

(1) 運営体制の見直し(経緯、体制、予算)

業務計画		評価	評価理由及び改善案
G-1	戦略的経営課題への対応	◎	直執行化に伴う新体制の検討、職員の採用、総務・人事面の調整等を滞りなく行い、通常の運営業務を実施しながら来館者サービスを低下させることなく新体制へ移行した。
G-3	予算編成・管理	○	

(2) VIP・特別来館実績

業務計画		評価	
G-5	VIP・特別来館への対応	○	

(3) 施設管理

① ネットワーク・セキュリティ統計

業務計画		評価	
H-3	未来館施設全体の維持管理及び情報システム	○	

②研究施設関連

業務計画		評価	
H-4	研究施設の使用管理	○	

(4) その他(各種管理)

①総合調整

業務計画		評価	
B-7	総合調整	○	

②役員秘書業務

業務計画		評価	
I-1	役員の秘書業務	○	
I-3	館長講演業務	○	

③展示企画に関するプロジェクト

業務計画		評価	
F-10	プロジェクト管理	○	

④館内委員会庶務

業務計画		評価	
G-6	委員会及び会議の庶務	○	
F-12	事業推進に関連する委員会／会議の庶務	○	

⑤業務計画・管理・評価、文部科学省、JST機構本部等との連携

業務計画		評価	
G-2	業務計画・管理・評価	○	
G-4	文部科学省、JST本部等との連携	○	

⑥賃貸借展示物

業務計画		評価	
E-10	賃貸借展示物の管理・運用	○	

⑦予算管理、調達契約、物品管理等

業務計画		評価	
H-1	資金管理及び予算執行	○	
H-2	調達契約、その他の契約(分任契約担当者の事務の範囲に属するものに限る)	○	
H-5	物品、不動産等の管理及び維持	○	
H-9	寄付金等の受入れ	○	

⑧総務等

業務計画		評価	
H-6	総務	○	
H-7	未来館の事業運営に従事する職員の任免、賞罰、服務、配置その他の人事(普及展開課に係るものを除く)	○	
H-8	衛生及び安全の管理	○	
G-7	その他	○	

以上